

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890700040		
法人名	株式会社 しもふさの郷		
事業所名	グループホーム くわの実	ユニット名	くわの実
所在地	〒307-0043 茨城県結城市大字武井1244-6		
自己評価作成日	平成26年12月19日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890700040-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月27日	評価機関 決済日	平成27年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者（認知症高齢者）の心身の状況を踏まえて、その能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、一人一人の個性に合わせた必要な援助を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念に「お一人お一人のリズムにあった個別のケア」と謳い、管理者と職員は、朝が苦手な朝の日課に遅れ気味な利用者に対して個別に対応をするなど、利用者一人ひとりの生活スタイルやリズムに合わせた支援に努めている。 同一法人が運営する特定施設入居者生活介護事業所や短期入所生活介護事業所、通所介護事業所とは、各種委員会や研修、ボランティアの受入れのほか、地域交流の機会となっている「感謝祭」の開催や災害時の協力関係など、多方面で連携が図られている。 看護師が職員として配置されていたり、隣接のクリニックより月2回訪問診療が実施されるなど、医療連携体制が図られており、利用者の病気の早期発見や予防はもとより、家族等や職員の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を管理者と職員で話し合う機会を常に設けている。また、コミュニティーの一員として、入居者が日常生活することを目指し、入居者と地域との交流を図っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し、食堂の見やすい場所に掲げている。 月1回のユニット会議では、会議の冒頭に全員で理念を唱和し、話し合いにより理解を深めるとともに、共有化を図り利用者を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は日常的に散歩、買い物等の外出を通して、地域住民とのふれあいを行っている。また、地域ボランティアの受け入れや地域行事等に積極的に参加し交流を図るなど、地域住民に認知症高齢者を理解してもらえよう努めている。	事業所周辺の散歩時や近隣のスーパーでの買い物時などには、地域住民に積極的に声をかけをして、事業所や認知症高齢者への理解をしてもらえよう、交流を図っている。 年に1度信用金庫の職員が、清掃活動や傾聴ボランティアとして来訪しているほか、マジックや民謡、フラダンス等の地域のボランティアが来訪し、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体を通じて、施設行事等において、その都度、地域住民の参加者や入居者の家族等に対して、認知症への理解や介護技術並びに援助方法を教示するよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居状況・活動状況等の報告を行っている。また、運営推進会議には、入居者家族も出席しており、会議において出た意見をサービス提供に反映するよう努めている。	運営推進会議は家族等代表や市職員、地域住民代表、法人本部関係者、代表者、管理者が参加して開催しているが年4回程度しか開催されていない。 会議では事業所の利用状況や行事等の活動状況報告のほか、感染症に対する事業所の取り組みや防災訓練の内容、事業所が実施している家族等へのアンケートの内容について、意見交換を行なっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回開催できるよう年間計画を立てて開催できることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は機会あるごとに、市担当者と連絡を取り、入居者の活動状況等を伝え連携を密にしている。また、運営推進会議には市担当者が必ず出席しており、当グループホームの状況は常に把握している。	市の担当者が運営推進会議に毎回出席しており、事業所の入居者状況や活動状況等を報告している。 管理者は生活保護受給利用者の介護計画を市の担当者に持参している。 市主催の「ふれあい祭り」に毎年招待を受けて参加し、子どもたちの歌やハーモニカの演奏を聴くなど、地域行事に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、身体拘束をせずに行うケア三つの原則を十分に理解し、身体拘束をしない、させない、より良いケアに努めている。また、会社全体で「身体拘束委員会」を設置しており、人権を最優先とした日常生活が送れるよう拘束廃止に向けた取り組みを、積極的に推進している。。	法人で身体拘束委員会を設置し、法人全体で身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。 管理者や職員は身体拘束の弊害について理解し、玄関の施錠を含め身体拘束をしない支援に努めている。 車いすから起立しようとする利用者に対して、その原因を究明してみると、一緒に入居している奥様が行動する時に立ち上がろうとすることがわかり、職員で話し合って対策を取るなど、拘束をしないで済む支援の方法を検討し、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や身体拘束を踏まえた内部研修及び市・県等の外部研修に管理者、職員が積極的に参加できる機会を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会等に管理者、職員が積極的に参加できる機会を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や報酬改定時等に、入居者本人及び家族等に対し、パンフレットや重要事項説明書等に基づき十分な説明を行うとともに、その他の疑問等の相談にも応じるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営については、入居者、家族等及び指導監督の権限のある市の意見を尊重し、できる限り事業運営に反映している。また、運営推進会議での意見も反映するよう努めている。	利用者からは普段の会話の中から、家族等からは来訪時や年1回家族等にアンケートを実施して、意見や要望を聴くようにしている。 家族等から「利用者の1日の様子が知りたい」という要望を受け、広報誌を家族等に郵送する時に、利用者の様子が分かる手紙を同封している。 家族等アンケートの結果については、運営推進会議や家族等にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は、平日頃から職員と意見交換を図っており、職員からの意見等については、運営管理に活かしている。	月1回のユニット会議で、施設長や管理者は職員の意見や要望を聞く機会を作っている。 職員からスキルアップのための介護資格の取得や勤務体制の希望などが出され、事業所として理解を示し、職員にとって働きやすい職場を目指して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者及び職員に対して、随時に個別的な面談等を実施し、職場環境、条件整備に努めている。また、夜勤者には、年2回の健康診断を実施し、健康管理に十分に注意を払っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社では、職員全体の技術・知識の向上を目指し、研修や勉強会を企画運営する「研修委員会」を設置し、スキルアップに努めている。また、施設外の情報をもとに、職員の研修会等への受講、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者が主催する認知症に関する研修会に参加させ、交流の場の機会を与えている。また、市内のグループホームの職員で組織する運営会議に出席し、意見交換を図り交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、入居者の心身状況が不安定であり、入居者の不安なことや要望等に傾聴し、信頼関係とコミュニケーションを図るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から入居者の困っていることや不安なこと、以前の日常生活の状況等を聞き、家族等の要望に沿ったケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の理念、方針に基づき、一人一人の個性に沿ったケアに努めるとともに、要求や要望等の早期発見に努める。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域密着型サービスの理念である本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の環境で暮らし続けることができるよう、職員と一体となって環境づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等は、入居者にとって最も大切な存在であるので、家族等に頻回に面会に来所するよう促し、ふれあいの場を積極的に進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設では、本人の意思を尊重したケアに取り組んでいることから、家族同様に友人等の関わりもケアのひとつとして支援に努めている。	月に1回来訪している理・美容師とは馴染みの関係ができている。 デイサービスを利用している利用者の友人が、利用者を訪ねて来た際には、歓迎して馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での利用者同士の関わりは、共同生活するうえで大変重要であり、常に交流が図られるよう職員が身守り等の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて在宅又は他の施設に移られても、機会があれば、本人および家族等への支援は惜しまないいたします。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族等の意向に沿って、計画作成担当者が作成するサービス計画に基づいてサービスを提供している。	職員は日々の暮らしの中で利用者の行動や会話から思いや希望、意向を把握している。 意思表示の困難な利用者に対しては、家族等から話を聴いたり、生活歴を尊重した利用者本位の支援に努めている。 利用者の発する「つらいんだ」と言った言葉について職員はすぐに理解できなくても思いに寄り添うことに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の心身状況及び家族、福祉関係者等からの聴取により、以前の暮らしを把握し、本人の意向に沿ったサービスの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス計画におけるアセスメントを参考にして、職員が個別に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、本人、家族、職員との意見交換を行い、運営方針に基づきサービス計画の見直しに努めている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を面会時等に聴き、職員で話し合って計画作成担当者が作成している。 長期目標を6ヶ月とし、モニタリングは3ヶ月に1回実施している。 利用者の状態や家族等の要望などに変化が生じた場合には、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にケースカンファレンスを開催し、入居者の個別ケースについて、運営方針に基づきサービス計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当社は、グループホームに併設して有料老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所の介護保険事業を展開しており、利用者の個別ニーズに柔軟に対応できる体制が構築されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービスの計画作成にあたっては、利用者を支えている地域資源を把握し、安心して暮らして行けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当社関連の、しもふさクリニック（歯科）、みわの郷クリニック（内科）により、定期的な健康診断の実施や訪問診療など医療体制は充実している。また、専門性及び緊急性のある場合には、近隣の病院等との連携も図られている。	利用者や家族等の希望により、利用者全員が協力医療機関でもある隣接のクリニックがかかりつけ医となっている。 診察内容によっては専門医への受診に職員が付き添って、受診結果を電話で家族等に報告している。 隣接のクリニックとは医療連携体制が出来ており、月2回の訪問診療を実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の計画作成担当者は、看護師を兼務しており、医療看護体制は充実している。入居者が適切に医療が受けられるよう管理し、支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が医療機関等に入院する際には、ソーシャルワーカーなど病院関係者との情報交換を密にし連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、早い段階からかかりつけ医、家族等との連携を図り、本人及びご家族の希望に添えるよう努めている。	契約時に看取りにおける事業所の対応指針「看取り介護に関する指針」を説明し、同意を得ている。 協力医療機関である隣接のクリニックと医療連携が図られているほか、介護支援専門員でもある計画作成担当者は看護師で、24時間オンコール体制が取られており、家族等や職員の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時の対応マニュアルが整備されている。定期的に職員に周知し、現場での実践に対応できるよう努めている。また、当施設内にAEDを備え付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、計画的な訓練と設備改善を図り、入居者の安全確保に万全を期している。また、消防署の協力により消火訓練、避難訓練を実施している。	年2回消防署立ち会いのもと、隣接する短期入所生活介護事業所と合同で防災訓練を実施しているが、訓練に地域住民の参加や夜間想定の実施していない。 隣接する特定施設入居者生活介護事業所で米や水、レトルト食品、発電機等が備蓄され、一括管理しているが、事業所独自で把握はしていない。 災害時の緊急連絡網を整備しているほか、火災時や地震時毎に活動フロー表を作成している。	夜間想定避難訓練を実施することを期待する。 防災訓練等に近隣住民や地元消防団の参加が得られるよう、運営推進会議などで働きかけることを期待する。 災害時の備蓄品は、事業所独自の備蓄品リストを作るとともに、賞味期限を含めて管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしを続けるため、職員は、入居者に対し、きちんと姓で呼ぶよう心がけている。また、同姓や夫婦で入居している場合には、名前で呼ぶこともある。	個人情報の管理を含めたプライバシー保護マニュアルを作成している。 排泄の支援では小声でトイレ誘導を行うなど、利用者の人格に配慮した支援に努めている。 管理者は職員の日々の支援の中でも利用者の尊厳を守ることを意識して、職員の利用者への馴れ馴れしい言葉遣い等、感じるものがあれば職員に率直に話をして理解を得るようにしている。 個人情報の管理は鍵のかかる事務室の書棚で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者から、手紙やはがきをだしたい、電話をしたい等の申し出には、その都度対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設行事などの予定があっても、入居者の意思を尊重し、居室にて過ごすことも多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者のなかには、お化粧品や髪を整えることができない方もいるので、職員が支援している。また、毎月理美容の申し込みを受けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状態によって、できるものを職員と協力しながら行っている。	食事は同一法人の短期入所生活介護事業所と一緒に、隣接の調理室で栄養士が献立を立て、それに基づいて調理して提供している。 週1回利用者と職員で実施するおやつ作りでは「この次は何を作るの」といった会話から利用者の楽しみになっており、利用者の生き生きとした表情や活動が見られている。 食事の手伝いができる利用者は、テーブル拭きや下膳、食器洗いに参加し、利用者と職員は同じテーブルで楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、嫌いなものでも食べてもらえるよう声かけしている。水分摂取の少ない方には、夜間でも一人一人に合った水分補給を行っている。また好物を希望に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れができない方には、職員が行っている。自歯の方は、職員の介助で歯磨きを実施している。また、しもふさクリニック（歯科）の歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用の方も、排泄の申し出があればトイレ誘導している。職員は入居者の排泄パターンを理解し、トイレ誘導している。	排泄記録表に利用者の排泄の状況を記録することで、必要な利用者には声かけをしたり、手引きでトイレに誘導したりと利用者の状態に応じた排泄支援を実施している。 利用開始時はリハビリパンツを使用していた3名が、職員のトイレ誘導や声かけで、期間の個人差はあるが今では布パンツで、自立の状態になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理者及び職員は、水分摂取量に注意を払っている。また、入居者のなかには心不全の方もいるので、水分不足や過剰摂取に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しめるよう、各自希望の時間帯を考慮し実施している。また、一人で入浴したいと希望される方については、次の人を脱衣場に入れれないなど個々に応じた入浴支援をしている。	週3回を基本に入浴支援を行い、利用者の希望によって、午前、午後、夕方の時間帯で入浴支援をしている。 入浴を拒む利用者に対しては、入浴表を見せて納得してもらったり、時間や声かけの工夫により誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態も一人一人違っており、安静の必要性も当然違っていているため、個々に応じて対応している。また、就寝時間も日課表の時間内に希望される時間帯にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医薬品の使用介助については、当施設の看護師が、その使用目的、取り違えその他の誤使用を防止する方策、適正に使用する方法等について職員に対して周知徹底している。特に医薬品の取り違えについては、日頃から職員の声かけなどにより、本人確認の徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方で、台所仕事を好まれる方がおり、お米とぎやお茶碗洗いなど、職員と一緒にしている。また、草取り、水やりや洗濯ものたたみなど楽しみながら行っている方もいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の入居者には、家族の協力により月1～2回外出・外泊している。また、併設している有料老人ホームに、ヤギや小鳥、ウサギを飼育しており、入居者の癒しのため、散歩がてら日常的に鑑賞している。	天気の良い日には、特定施設入居者生活介護事業所で飼育しているヤギや小鳥を見に出かけたり、事業所周辺を散歩している。季節に応じて花桃や桜、アジサイ、紅葉などを車いすの利用者も一緒に外出して四季を感じられるよう支援している。帰宅願望の強い利用者には、家族等の協力を得て、個別に外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は、家族から預かっているお金であることを本人に伝え、買い物に出かけている。買い物では、支払いを本人に行わせ、お金の大切さを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ホール内にある電話で直接本人が掛けるよう支援している。手紙については、本人に書かせているが、宛先が不十分であるため、直接家族に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーを毎月作成し、ホールに掲示して、季節感が出るように努めている。また、散歩や各種行事等に参加した写真を掲載するなど、居心地良い空間が保てるよう工夫している。	談話室は日当たりが良く、利用者のほか、家族等や友人の来訪時には、居室のほかにゆっくり寛ろげる場所となっている。食堂から出られる中庭に、テーブルや長椅子を配置し、おやつを食べたり、利用者が寛いだりする場所として活用している。食堂には利用者と職員で毎月作成しているカレンダーを飾るほか、廊下の壁に外出時の写真を掲示したり、食堂のテーブルに職員が自宅で育てている切り花を飾ったりして利用者の目を楽しませている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室には、入居者が集まってきており、テレビを観たり、談話をされている。また、一人で過ごしたい方は、ソファでくつろいでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた、肘掛椅子などを持参していただき、生活行動パターンを変えないよう工夫している。	居室にはベッドやエアコン、洗面台を備え付けている。 利用者は使い慣れた寝具や椅子などの家具、衣装ケース、テレビなどを持ち込むほか、誕生祝いの寄せ書きや家族の写真を貼ったり、鉢花を飾るなどにより居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができることは行わせているが、職員が必ず身守りをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム くわの実

作成日 平成27年8月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定避難訓練を実施することを期待する。	夜間想定避難訓練を実施する。	会社の他組織とも協力して実施する。	6ヶ月
2	35	防災訓練等に地域の方の参加が得られていない。	地元消防団に参加いただけるよう要請する。	感謝祭等の催し等の機会にグループホームを理解していただき参加をお願いする。また地元消防団分団長に要請する。	6ヶ月
3	35	災害時の備蓄品について把握できていない。	備蓄品台帳を整理し管理する。	組織の中で一括管理されている為、全体像を把握する。	3ヶ月
4	4	運営推進会議が2ヶ月に一回開催することを期待する。	2ヶ月に一回開催することを計画を立て実践する。	計画に沿って実施できない事情が生じた場合、翌月に実施する。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。